

(訂正とお詫び)

会誌「プレストレストコンクリート」第61巻3号掲載の設計報告「池之島橋他3橋（PC上部工）工事の設計」の18ページ記載箇所につきまして誤記がありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

(誤)

池之島橋は橋長301.0 m、桁高3.000～6.500 m、有効幅員8.830 mの単一箱桁断面で、免震構造である。片持ち張出し工法による架設で、橋脚高が最大32.0 m、支間長が最大86.0 mの橋梁である。上小島橋は橋長60.2 m、桁高1.900～2.300 m、有効幅員8.750 mの単一箱桁断面で、剛結構造である。固定式支保工による架設で、①脚頭部の施工、②端支点横桁部を除いた主桁の施工、③両端支点横桁部の施工の順番である。栃洞谷橋は橋長187.5 m、桁高2.200 m、有効幅員9.060～10.810 mの分離箱桁断面で、免震構造である。固定式支保工による架設で、A2桁端側に非常駐車帯を有する橋梁である。越ヶ谷橋は橋長280.5 m、桁高3.000～9.000 m、有効幅員9.110 mの分離箱桁断面で、免震構造である。片持ち張出し工法による架設で、橋脚高が最大15.0 mと低く、橋が小島川と斜めに交差するため、支間長が134.0 mと長い橋梁である。

(正)

池之島橋は橋長301.0 m、桁高3.000～6.500 m、有効幅員8.830 mの単一断面で、免震構造である。片持ち張出し工法による架設で、橋脚高が最大32.0 m、支間長が最大86.0 mの橋梁である。上小島橋は橋長60.2 m、桁高1.900～2.300 m、有効幅員8.750 mの単一断面で、剛結構造である。固定式支保工による架設で、①脚頭部の施工、②端支点横桁部を除いた主桁の施工、③両端支点横桁部の施工の順番である。栃洞谷橋は橋長187.5 m、桁高2.200 m、有効幅員9.060～10.810 mの分離断面で、免震構造である。固定式支保工による架設で、A2桁端側に非常駐車帯を有する橋梁である。越ヶ谷橋は橋長280.5 m、桁高3.000～9.000 m、有効幅員9.110 mの分離断面で、免震構造である。片持ち張出し工法による架設で、橋脚高が最大15.0 mと低く、橋が小島川と斜めに交差するため、支間長が134.0 mと長い橋梁である。

表 - 1 橋梁諸元

(抜粋)

道路区分	第1種第3級 B規格			
	単一箱桁断面	単一箱桁断面	分離箱桁断面	分離箱桁断面
主桁				

表 - 1 橋梁諸元

(抜粋)

道路区分	第1種第3級 B規格			
	単一断面	単一断面	分離断面	分離断面